

第3部 財務省職員からのメッセージ

出向者対談

SPECIAL INTERVIEW

北海道財務局
理財部統括金融証券検査官付
片田 峻亮 [平成28年入省]
KATADA Shunsuke

北海道財務局
管財部統括国有財産管理官付
杉 貴大 [平成28年入省]
SUGI Takahiro

Q.はじめに

片田:私たちは現在、財務省(以下「本省」という)の地方支分部局である北海道財務局に出向しています。私は、令和2年7月から出向しており北海道2年目、杉は令和3年7月から出向しており北海道1年目です。これから、私たちが出向で感じたことなどについて、ざっくばらんに紹介します。

それにしても、同期で同じタイミングに同じ場所へ出向になるとは思わなかったよね。

杉:本省で勤務している時は、一度も同じ局で働くことができなかったから、まさか北海道で一緒になるなんて夢にも思っていなかったよ。でも、片田がいてくれて本当に良かった。片田も経験したと思うけど、初めて尽くしでワクワクな反面、やっぱり仕事も環境もかなり違って不安な部分も大きかったから、知り合いを紹介してくれたとか、人を繋ぎ合わせてくれたり、業務のあれこれを伝えてくれたりして、初めて片田が頼もしく思えたよ。(笑)

片田:そう言っていただき光栄です。(笑)

Q.現在の担当業務について

杉:じゃあ、まずは北海道財務局で担当している

業務について紹介していこうか。



片田:私は現在、理財部統括金融証券検査官兼金融監督第二課に所属しており、北海道の地域金融機関の健全かつ適切な業務運営状況について、監督業務を行っています。具体的には、金融機関から提出される各種報告の確認、財務データの分析、ヒアリングを通じた業務運営状況の把握等の様々な手法により金融機関をモニタリングし、経営陣との対話を重ねて課題を解消しています。

杉:財務局は財務省の地方支分部局でありながら、金融庁からの業務委任を受けて金融行政も担っているんだよね。1つの機関に2つの組織の業務が併存しているのは、財務局ならではの、面白いね。私は管財部第二統括国有財産管理官に所属しており、国有財産の管理処分業務を行っています。

具体的には、例えば、公務員が勤務する庁舎などの行政目的で使用している国有財産が「行政財産」、それ以外の国有財産が「普通財産」と区別されている中で、私は普通財産を担当しており、地方自治体から個人の方まで様々な方に対して、国有地の売却や貸付け等を行っています。

片田:私も昨年は管財部で仕事をしていたけど、1つの国有地の取引をとっても、現地確認から契約書の締結までやることが多くて時間がかかるよね。それに、登記や土地の評価では不動産業務の知識も使うから、慣れるまで結構大変じゃない?

杉:少しずつだけど、ようやく知識も付いてきて慣れてきたかな。地域のニーズに合った有効活用を図りながら、売却や貸付け等を積極的に行うことで、微力ながらも国の財政に貢献できるように、頑張ろうと思っているよ。

Q.本省と地方支分部局の違い (実際に働いてみて感じたこと)

杉:片田は、北海道財務局で管財部と理財部の2部局の勤務を経験しているけど、本省との違いをどう感じた?

片田:職員の多くが北海道出身の同郷であることや、同じ部局で担当する期間が長いことも

あって、様々な採用形態の職員で構成されている本省よりも職員同士のつながりが強いと感じたかな。それと、本局以外にも管轄する都道府県(北海道は主要地区)に事務所があって、各事務所への転動もあるから、同じ建物内の異動がほとんどの本省に比べて、引っ越し等が大変そうだなと。



杉:特に北海道は大きいから、北海道内での異動も単身赴任になったりするし、大変そうだね。私が感じた一番のギャップは「仕事の相手」かな。今まで本省で勤務していた時は、公務員同士で仕事することが多かったから、財務局で、民間企業や地域の方など様々な方と直に接しながら仕事をしていると、「本省で(公務員として)やってきたことが当たり前のことじゃなかったのか」と思うことが多々あって、その度に自分の視野が狭かったことに気づかされるな。

財務局での仕事の多くは、相手の方が、我々、財務局側の事情や仕事の進め方などを当然に知りえないこともあって、様々な角度から質問をされるけど、それに応えるためには、今まで以上に、どのような質問をされるか事前に多くの想定をしておく必要があって、かつ、分かり易く趣旨に沿った説明をしないといけないから、本省とは違った難しさを感じると同時に、自分の準備力のなさも痛感しているよ。でも、さっきの気づきもそうだけど、様々な質問に反応していくことで、間違いなく視野が広がっていて、すごく良い経験ができていると思っているよ。

Q.出向してよかったことや考えるようになったこと、今後の展望について

片田:他にも出向してよかったことや考えるようになったことはある?

杉:経験が長くなればなるほど当然求められることが多くなっていくから、求められることに対して臨機応変に応えられるような「幅」を持ちたいと考えるようになったことかな。

今まで経験したことのない業務を積極的に経験していくことはもちろんだけど、一般の方などに対して、正確で分かり易い説明を求められることが多くあるなど、財務局での経験は行政の現場でのみ経験できることなので、今後の公務員人生において得難い経験になるものだと思う。

片田:そうだね。私も、本省と全く異なる業務に携われたことで、自分に向いている業務や今後やりたいことのヒントを得た気がする。

これまでと仕事の性質や環境が異なる財務局の現場での業務を経験して、多くのことを学んだのはもちろんのこと、政策を企画・立案する本省とそれを実行する財務局の双方の立場で考えるようになってきたかな。

財務局で働いてみて、本省の指示やその目的が、財務局に十分に伝わらないまま行われている業務も少なからずあるように感じていて、それゆえに余計な業務に気づけていないことや主体的に取り組めていない業務があると思うんだ。業務の目的を丁寧に説明(本省側)し、十分に理解(財務局側)することで、円滑かつ相乗効果を伴った仕事につながると気づき、双方の立場で考えることの大切さを再認識できたよ。

杉:この先、自分たちが本省のどの局でどんな仕事をするかは分からないけど、どのポジションになっても、任せられた場所で求められることに応えられるように、お互い精進していこう!

Q.週末・プライベートの過ごし方

杉:北海道の先輩、片田さんはどんなプライベートをお過ごしですか?!

片田:北海道財務局では、定時退庁できることも多く、ジムやサウナという新たな趣味を見つ

けることができたよ。また、週末は北海道で購入した初のマイカーに乗って、道内を旅行しているよ。ゴルフ場やスキー場が東京ではあり得ない近さにあるから、夏はゴルフ、冬はスノーボードが気軽にできるのも嬉しいよね!

杉:確かに、本省に比べて、終業後の時間は比較的多く取れるから、自身の興味のある勉強をしたり、これまでにない趣味を見つけたりすることができるよね。私も片田に影響されて、ジムとサウナをデビューさせてもらいました。(笑)北海道でしかできないこと、食べられないもの、行けないところ、をできる限りやりたいと思っているけど、なんだかんだ毎月、片田と遊んでいる気がするな。いつも片田さんのマイカーにはお世話になってます。(笑)

よく飲み会に行くのはもちろんだけど、雪合戦やったりしたとか、東京にいる時よりも仲良くなったよね。(笑)

片田:そうだね。最近の状況ではあまり旅行に行くのも難しいけど楽しもう!

杉:2人で「アナザースカイ」作ろうぜ。



Q.財務省を志望する方へのメッセージ

片田:最後に財務省を志望する方へのメッセージをお願いします!

杉:本省から離れて働いている今、財務局でしか経験できないこともたくさんありますが、改めて財務省の職務環境が素晴らしいことも実感しています。

スケールの大きな仕事を、スピード感を意識しながら正確にこなしていく、こんな難しい事を、当たり前のようにできる職員がたくさんいる組織は中々ないと思いますし、一方で、置いてけぼりにならないように上司や同僚がきちんとサポートもしてくれるので、一社会人としてとても成長することができる最高の環境だと思っています。なので、ぜひ財務省で一緒に仕事をして、一緒に成長しましょう!

片田:財務省ならではの仕事、本省で働くことの魅力は多々ありますが、時には外部の組織からこれまでの仕事を振り返ることで、組織の良さや新たな自分を発見できると思います。本省本体の魅力を語ることは他の紙面に譲りますが、出向という形でこれまでとは違う業務環境で働く機会を得られるのも、財務省で働く魅力の一つです。ぜひ財務省で一緒に働きましょう!

同期対談

SPECIAL INTERVIEW

大臣官房文書課
国会連絡室
山上 孝祐 [平成29年入省]
YAMAGAMI Kosuke

国際局為替市場課
国際収支第二係
山本 郁 [平成29年入省]
YAMAMOTO Aya

理財局国庫課
通貨企画調整室通貨総括係
金原 和歩 [平成29年入省]
KINPARA Kazuho

Q.現在の担当業務について

山上：私は行政府である財務省と、立法府である国会との連絡調整を中心に、日々、関係各所へ足を運び国会運営に関係する情報を収集し、その情報を財務省と繋ぐ役割を担っています。そのため、執務室も本省ではなく国会議事堂内にあり、財務省の中で一番国会との距離が近い部署だと思います。一般の方が、普段生活をする中で国会に触れる機会というと、国会審議の一部をニュースで見るとは思いますが、その裏では多くの人が動いていることを日々実感しています。国会での出来事は、財務省の業務運営の方針の基として、世の中に大きな影響を及ぼすことになる場合もあるため、常に緊張感を持って業務を行っています。二人はどんな業務をしていますか？



金原：僕は皆さんが毎日のように使っている貨

幣の製造に要する費用の予算要求が主な業務です。キャッシュレス化の影響で以前より貨幣を使う機会が減ったかもしれませんが、新500円貨幣の発行などの話題もあり、貨幣もまだまだ現役です。予算要求においては、来年度造幣局において貨幣を製造するために必要な予算について、主計局の担当者と検討や議論を行っています。

山本：私は証券売買についての統計の作成・公表と、省令に基づき金融機関等から報告された書類の分析を行っています。私たちの生活に近いところでは、投資信託や株式の売買が国内外でどうなっているのか(どこに需要があるのか、人気があるのか等)を見ることがあるので、債券市場や株式市場の動向、世界各国の情勢を以前よりも注視するようになり、新聞や経済記事を見ることが面白くなりました。

Q.入省から現在までで変わったこと・変わっていないこと

金原：入省してから1～2年は、「とにかく早く仕事に取り組んで終わらせないと！」という焦りや考えから、先輩や上司に不備を指摘されることが多くあって、結果的に時間がかかっていました。仕事を早く終わらせることは大切だと思



いますが、不備が多い仕事は最も良くないことだと反省し、今は確認を怠らず、疑問点がある場合はまず調べてから報告するようになりました。その結果、一つひとつの業務にかかる時間は短くなり、全体として効率よく業務を進めることができました。なお、「ほうれんそう」を欠かさないことや元氣よく挨拶・仕事をするなど、社会人としての基本は、入省1～2年目と変わらず、これからも大切なことだと思います。

山本：それは非常に共感できます。私の場合は、仕事のやり方や優先順位の付け方の判断に悩むことが多く、先輩の仕事ぶりを見様見真似でやっていたけれど、時が経つにつれて、感覚がつかめてきたのか、自分で作業スケジュールを考えたり、期限までに仕事を進めるために必要な資料や作業の洗い出しを逆算したりできるようになったので、「なぜこの業務があるのか？」等

の疑問をプラスで考えられるようになったところが変わったところだと思います。入省前から先輩たちに言われていた「仕事＝日々勉強」という点は、まさしくどの部局に行っても変わらないと毎日実感しています。

山上：業務の進め方を自分なりに考えられるようになったことは私も同じですね。入省当時は業務の優先順位を考えられる余裕がなく、目の前の業務をこなすことで精一杯でしたが、5年が経ち、そこは少し変わったかなと思います。逆に変わっていないことは、常にアンテナを張ること、よくコミュニケーションをとることであり、些細なことであってもそれが何か大きなことに発展することがあることを常に心がけ、私も「ほうれんそう」を大事に、些細な情報でも周りに共有するようにしています。他には、入省当初は周りの先輩や同僚に色々聞いていましたが、年を経て後輩ができたり業務を覚えたりすることで、周りから聞かれることも増えてくるという変化もあるかなと思います。

Q.今後の展望について

山本：気付けば若手係員だった我々も中堅係員になり、係長の仕事を手伝ってもらえる機会が出て、業務の幅が広がった気がします。それに

加え、後輩に刺激をもらう機会も増えたので、自分も受け身になるばかりでなく、入省時のように積極的に仕事をしていきたいという意識を忘れずに、今後も業務に取り組みたいと思います！
ちなみに二人はどんな展望を持っているの？



山上：今後は、これまで経験した業務を軸にさらに知識と経験を積み重ねていきたい。財務省の業務は多岐にわたるため、自分自身まだまだ知らないことが多くあると思うけど、その分吸収できることも多いので、併せて、人としての成長もしていきたいです。

金原：様々な部署の業務を経験させていただき、業務の幅だけでなく人脈も広がったので、社会人としてゼロからスタートした僕を成長させてくださった恩返しとして、少しでも財務省の業務や組織運営に貢献し、ひいては、よりよい社会になってほしいという気持ちで、一生懸命に業務に取り組んでいきたいな。もちろん社会人として未熟な部分はまだまだあるので、これから多くの知識を貪欲に習得して、今後の業務に活かしたい。そして入省時の志望動機を忘れず、国家公務員として働くという強い責任感を常に持って仕事をしていきたいです。

Q.財務省を志望する方へのメッセージ

山上：僕たちも就職活動当時は、就職という人生の中で大きな決定をするにあたり、学生なが

らに真剣に考えていました。当時は、公務員ではない別の選択肢も視野に入れながら、試験勉強と並行して取り組んでいました。そのため、試験勉強に費やせる時間が少なくなる不安はありつつ公務員とは別の業界を知ることで得たものもありましたし、逆に、それらを踏まえて最終的に財務省で働くことを選んだ理由というのは、まずは、財務省の人に会ってもらえれば少しは共感してもらえんと思います。皆さん、財務省という組織には色々なイメージを持たれていると思いますが、きっかけは何であれ、少しでも興味を持っていたただけの方は是非一度説明会にも参加してもらえると嬉しいです。

金原：社会人になれば、大学までの人生の倍以上の時間を働き、文字通り人生の大半を仕事に費やすことになります。1年少々就職活動期間で、今後の人生を左右する重要な決定をすることは非常に難しいことだと思います。自分がした選択を後悔しないために、公務員試験の勉強も重要ですが、時間が許すのであれば、選択肢を自ら狭めず、様々な省庁・業界・職種を見てほしいと思います。就職活動期間は大変で辛いことも多いですが、その経験が、今の仕事をやるモチベーションにつながっています。みなさんも最後まで諦めずに頑張ってください。

山本：二人と同じように、私も当時は将来をどうするかとても悩みましたが、今でも就職活動は人生の中で大きなイベントだったと思い返すことがあるので、体調や精神面を労わりながら、時間の許す限り選択肢を広げてもらいつつ、納得のいく就職先を選べるように頑張ってください。そして、もしその中に、財務省が候補に上げられれば嬉しいですし、仮にそれ以外の志望となった場合でも、パンフレットを手にとってくださった皆様にとって、最善の選択となることを心より祈っています。





理財局総務課管理係
百目鬼 里紗 [平成28年入省]
DOMEKI Risa

理財局総務課文書係
田栗 雅也 [令和3年入省]
TAGURI Masaya

先輩×後輩対談 SPECIAL INTERVIEW

Q.現在の担当業務について

百目鬼：私たちの所属する理財局総務課は、理財局全体の運営に関わる総括・調整業務を行っています。中でも田栗さんの担当業務を教えてください。

田栗：文書係という係の業務に携っており、局内の行政文書の管理や国会との窓口業務を行っています。特に国会関係の業務は、瞬発的に正確な対応が求められるため、同じ係の中の情報共有を徹底しています。

百目鬼：いつも国会対応やシステムの問い合わせなど、局内外を繋ぐ業務を次々とこなされていますね。なお、私の担当する管理係の業務には局の幹部のスケジュール管理があります。各幹部の限られた時間を効率よく使えるよう検討し、急用が発生しても影響が最小限で済むように関係者間の調整を行います。些細なことでも必ず確認し、関係先にすぐに情報共有することを意識しています。



Q.理財局のやりがい・魅力について

百目鬼：業務の幅広さ、規模の大きさが魅力ではないでしょうか。普段の暮らしにも理財局の

業務が繋がっていて、よく知る公園や施設も実は国有地である場所も多く、国有部門でその運用・管理をしていたり、財布の中の紙幣・貨幣には国庫課が大きく関わっています。一方、昨年まで所属していた国債業務課では、毎週、兆円単位の国債を発行していました。国債の買い手は国内の金融機関や投資家のみならず海外の投資家もあり、グローバルな業務に携わることができました。

田栗：百目鬼さんと同じ内容になってしまいましたが、業務の幅広さだと思います。業務を通して、常に発見や驚きがあります。特に「財政投融资」分野は、知れば知るほど国民の生活に深く結びついていることがよくわかります。最近の例では、高速道路の整備や都市再開発への財政投融资などでしょうか。

Q.先輩からみた後輩の姿、後輩からみた先輩の姿について

百目鬼：田栗さんのいつも落ち着いた対応、丁寧な報告・連絡・相談を重ねている姿に刺激を受け、襟を正す思いです。文書係は突発的な業務が多く、休む暇がない時もしばしばありますが、そのような状況でも、忙しさを感じさせない業務対応にはいつも驚いています。また、仕事に慣れてきて、係内での助け合いや、円滑なコミュニケーションも増えてきたように感じています。

田栗：百目鬼さんも、まるで演奏会の指揮者のように、様々な仕事を同時にこなされていて、私も刺激を受けます（笑）



Q.財務省を志望する方へのメッセージ

百目鬼：理財局の一部分を紹介しましたが、財務省全体では私たちの知らない業務がまだまだあります。説明会等に参加し、実際に働く職員から話を聞いてみると、財務省のイメージが変わることもあると思いますので、是非、機会があれば参加してみてください。

田栗：財務省といったら予算編成、とイメージされる志望者の方が多いかと思いますが、いざ入省して仕事をしていくと、知らない業務が多くあります。興味のある方は、財務省ホームページをご覧になれば、驚きや新しい発見がきっと見つかると思います。（自分も、いまでも、よく財務省HPを見て、こんな業務があるのか、と驚いています。）

是非ご参考にしてみてください！



主計局経済産業第三係長
津田 浩平 [平成19年入省]
TSUDA Kohei

主計局経済産業第三係
横田 冴介 [平成30年入省]
YOKOTA Sasuke

上司×部下対談 SPECIAL INTERVIEW

Q.現在の担当業務について

横田：このパンフレットをお読み頂いている皆さんの中にも、アニメやゲームが好きという方は多くいらっしゃると思います。私の所属する経済産業第三係では、経済産業省予算のうち消費・流通、コンテンツ産業等に関する予算を担当しており、その中でも私は、日本のコンテンツの海外発信（例えば「ワンピース」や「ぶよぶよ」の外国語への吹替・翻訳など）の促進に関する予算を担当しています。予算係では、私のような若手係員でもこんなに多くの事を任される（決められる）のかと驚くことが多く、最初はどちらか良いか戸惑っていましたが、津田係長から「自分が払った税金がどう使われたら納得できるか考えてごらん。」とアドバイスをいただき、自分なりに考え方を整理して、予算編成に臨むことができました。



津田：横田くんもたった半年で自分の担当予算をスラスラと説明できるようになったね。今年はコロナの影響でイレギュラーな対応もあって、主計局の中でも相当大変な担当だったと思うよ。

横田：担当予算については資料が粉々になるほど勉強しました！

Q.主計局のやりがい・魅力について

津田：予算編成のヤマとなる半年間を終えてみて、主計局のやりがいや魅力は見つかった？

横田：編成期はとても忙しくて大変だったので、冷凍食品（主にポロネーゼ）のやけ食いには走ってしまいましたが（笑）、予算編成を終えて振り返ってみると、多くの担当予算について勉強し議論することを通して、その分野の専門的な理解が深まったことは勿論、施策のあり方自体についても深く考えるようになりました。特に今年はコロナが先行き不透明な中で、要求された予算を査定するだけでなく、今後の国の施策のあり方というより広い視点で、関係者と議論を重ねたことは貴重な経験でした。

津田：さっき横田くんが言った通り、社会人になって間もない係員であっても相当な裁量を与えられる職場で、勉強した成果を目前の予算査定に活かして、貴重な税金の使い道を決めていく仕事はなかなか無いかもしれないね。今回ポロネーゼで食への関心が高まったのなら、次は農林水産省の予算に携ってみるとか、環境の変化や時を経ることで興味・関心が変わることも少なくない中、異動を通して、様々な省庁の予算に関われる機会があるというのも主計局の魅力だと思うよ。

Q.上司からみた部下の姿、部下からみた上司の姿について

津田：コロナの影響で例年よりも相当大変な予算編成になったけれど、横田くんは主計局に来たばかりなのに乗り切って、よく頑張ったね。当たり前のことを当たり前に出来ることも、実は難しいけれど、

横田くんは忙しくて言われたことを言われた通りに見事にこなしてくれて、とても助かったよ。

横田：私から見た津田係長はとても心強い上司です。私が困っていれば手を差し伸べてくださるだけでなく、私の成長に繋がるように考え、関連業務のことも色々教えていただきました。主計局への異動を希望していた際には、業務外に時間を取っていただき、高級グルメ店で親身に相談に乗っていただきました。あの時のポロネーゼが一番美味しかったです。（笑）

Q.財務省を志望する方へのメッセージ

横田：財務省の業務は多岐にわたっており、その中で主計局は各省庁の財布に関わる重要な役割を担っています。国をより良くするために、どのような政策に予算をつけるべきか日夜議論を交わしています。忙しい部署ではありますが、閑散期には休暇やテレワークを活用して十分に自分の時間をとることができ、メリハリのある働き方ができます。主計局の業務について興味湧いたらぜひ説明会に足を運んでみてください！

津田：その通りだね。私も多くの方が主計局の業務に興味を持ってもらえれば嬉しいです。



係員の1日

【現在の業務内容】

私の所属する国庫課では、大きく分けて国庫制度と通貨制度という2つの制度を所管しています。前者の業務としては、国庫金の資金繰り(収入支出の調整)を行っています。後者の業務としては、貨幣・紙幣の製造計画の策定や偽造対策、造幣局・国立印刷局の監督等を行っています。また、近年では、社会のデジタル化の流れの中で、中央銀行が発行するデジタル通貨(CBDC)についても、通貨制度を所管する立場から、調査・検討や関係機関との意見交換を行っています。私は企画係で、課内各業務の調整及び課外との連絡業務を担っています。2021年度は、新500円貨幣の発行や造幣局・国立印刷局の150周年式典、日本銀行によるCBDC実証実験の開始など、注目を集める出来事が多く、国会への対応のほか、多数の外部からの問い合わせへの対応、関係機関との頻繁な連絡調整など、例年に比べ大変でしたが、その分やりがいのある1年でした。今回は普段の職場での1日について紹介します。

※CBDC:Central Bank Digital Currencyの略

理財局国庫課企画係
丸山 史佳 [令和元年入省]
MARUYAMA Fumika



係員の1週間

【現在の業務内容】

国際局の開発政策分野では、開発途上国における安定的な経済成長や貧困削減のため、国際協力銀行(JBIC)や国際協力機構(JICA)を通じた二国間の金融支援や、アジア開発銀行や世界銀行といった国際開発金融機関(MDBs)を通じた多国間の経済支援政策を行っています。私が所属する開発政策課は、財務省の開発政策のいわば司令塔的な立場として、質の高いインフラ投資や国際保健などの課題検討を推進しています。その中で、私は「経済協力費」と呼ばれる、開発政策を推進するために必要な政府開発援助(ODA)予算について、省内のとりまとめや、主計局への要求を担当しております。時期に応じて業務の内容は少し異なりますが、今回は主計局との予算折衝を行っている時期の私の職場の1週間をご紹介します。

国際局開発政策課予算係
中島 悠人 [平成30年入省]
NAKAJIMA Yuto



START

8:00
出勤時

財務省では、通常9:30が始業時間となっていますが、私は、少し早めに登庁するよう心がけています。登庁後は、朝刊各紙や国内外のニュースに目を通し、国庫課の業務に関連する記事がないかチェックします。業務に関連する記事があれば、速やかに担当係

へ連絡し、対応方針を協議します。朝刊等のチェックを終えた後は、メールチェックと予定の確認を行います。課内各係が抱えている案件の進捗状況を把握し、速やかな対応が必要なものから優先的に処理できるよう調整を行うのが、企画係員の一つの役割です。

10:00
午前

国内外のメディア・政府機関からの取材・問い合わせ対応を行います。国庫課は国民生活に身近な通貨を所管しているため、取材や問い合わせを多数いただきます。この日は、課長への取材が

あり、私も撮影用の資料を持って会場へ同行しました。後日、掲載された記事を見て、自身の業務が目に見える形になることに喜びを感じました。

12:00
昼食時



財務省内には食堂が3か所あり、いずれかの食堂を利用する方もいれば、コンビニで済ませる方、お弁当を持参する方など、お昼の過ごし方は職員によって様々です。私は、同期や先輩と他省庁

の食堂や、虎ノ門界隈のお店に食べに出ることが多いのですが、他部署の業務の話を聞いたり、プライベートな話をしたりして、リフレッシュできる大切な時間になっています。また、財務省では、定期的に研究者や講師を招いてランチミーティングを開催しており、興味のあるテーマの日は積極的に参加するようにしています。

14:00
午後

CBDCについて関係機関と意見交換を実施します。会議中はメモを取り、議論の概要を簡単にまとめます。着任当初は、初めて聞く単語が多く戸惑いましたが、関連著書を読んだり、セミナー等に参加することで、徐々に議論の内容を理解できるようになりました。

た。全体の議論を聞きながら要点をメモすることはとても難しく、議論をまとめた説明メモも、当初は上司にたくさん修正されましたが、日を迫うごとに、その場で要点をまとめられるようになり、自身としても成長を感じることができました。

18:15
退庁前

取材対応などのため、日中に時間が取れなかった業務を終わらせ、翌日スムーズに業務に入れるよう準備をしてから退庁します。国会の開会中や緊急の対応が入った場合は、終業が遅くなることもありますが、この日は何もなく、定時退庁となりました。特にここ

数年、財務省全体で業務改善に取り組んでおり、定時退庁がしやすい環境になってきています。早く退庁できた日は、最近始めたゴルフの練習やランニングを行い、デスクワークで凝り固まった身体を動かすようにしています。



休日の
過ごし方

休日は、気分転換をする貴重な時間となっています。この日は、近畿財務局に向向している先輩に会うため、大阪へ旅行に出かけました。入省当時からお世話になっている先輩に久しぶりに会うことができ、近況報告や昔話に花が咲きました。財務省で働いている方は気さくで頼りがいのある方が多く、困ったことがあると親身に相談に乗っていただけます。私もそんな先輩方のようになりたいと大きな背中を追う毎日です。

START

月

私の担当業務の一つに、JICA出資金の予算要求があります。この日は、水曜日に予定されている主計局への来年度予算要求方針の説明に先駆けて、JICAの財務状況や今後の課題について把握するため、JICAの担当の方へのヒアリングを行いました。予算の必要性を的確に把握するため、積極的に質問し、疑問点を解消する

ように努めています。また、関係部署から今年度におけるMDBsへの拠出金の支払いに関して決裁(承認)依頼が来たため、内容を確認し決裁をしました。金額が大きいいため、予算書などと照らし合わせの上、支払い額に間違いが無いよう細心の注意を払って確認しています。

火



前日のヒアリングの内容を踏まえ、翌日の予算説明で用いる資料を作成します。資料作成の際は、ヒアリングの際のメモを見返しながら、重要なポイントを抜き出し、予算の必要性が簡潔に伝わるよう努めています。特に予算の説明資料は細かい数字を用いる事が多いですが、時には図表を工夫して用いることで、分かりやすく記載

※UHC:「全ての人が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態」を指します。

水

前日に準備した資料を用いて、主計局へ所管業務の概要や来年度予算要求の方針について説明を行います。今回は初回の説明でしたので、経済協力費の全体像や重点事項を中心とした議論がなされました。説明の後は、その議論の中で新たに出た課題や、先方からの質問内容について記録を作成します。

国際局ではJICAやJBIC、民間企業といった様々なバックグラウンドを持つ出向者も在籍しており、午後はそのような職員の方が開く勉強会に参加します。途上国での実際の活動内容や現場での経験など、貴重なお話を伺うことができるので、積極的に参加しています。

木

先日の主計局への説明を経て生じた作業や新たな課題について、係内で齟齬がないか問題意識を共有し、今後の対応の検討を行います。また、主計局と予算の必要性について折り合えるよう、経済協力費のとりまとめ担当者として調整するが必要があり、新たな課題については、各予算の担当者とも共有し、対応方針につい

て議論します。また、今年度予算の使用(執行)状況を管理するため、四半期に1回、「支払予定表」を作成しています。支払い実績については、官庁会計システム(ADAMS)のデータベースとも照合の上、上司ともダブルチェックを行うなど、細心の注意を払って確認しています。

金

昨日作成した「支払予定表」に関して、予算の支出を行っている担当者とともに、認識の齟齬が無いかを確認します。また、来週以降の主計局への予算説明の際に議論になりそうな論点を整理し、説明資料を作成します。必要な資料を作成したら、

内容を上司へ報告します。金曜日はできる限り早く業務を切り上げて、プライベート時間を充実させるようにしています。友人と食事に行くこともあります。英語学習や読書をして過ごす事が多いです。

休日の
過ごし方

平日のモチベーションを維持するために、休日は気分をリフレッシュすることに専念しています。東京には美味しい食べ物がたくさんあるので、食べ歩きや気になるレストランで食事をしたり、テーマパークやショッピングに出かけたりもしています。なお、1年前からサウナにはまっており、近所のサウナ施設によく通っています。また、平日はなかなか家事に充てる時間が確保できないことから、休日に部屋を掃除して、心地よく過ごせるよう努めています。



日々新しいことを学ぶことができ、また、風通しの良い雰囲気だと思います。**経済動向を見たり、上司や先輩に知識を共有していただいたり、毎日新しい学びがあります。**また、仕事を1人で任せていただき、成長を褒めていただけることも多く、向上心をもって仕事ができる職場です。

職場の雰囲気はどうか？

役職に関わらず一人ひとりが明確な役割を持ち、仕事をしています。自分自身、その責任からプレッシャーを感じることもありますが、そうした**不安を察して、助けてくれる先輩がたくさんいます。**自分としては、まさに理想の職場です！

とても風通しのよい職場だと思います。**上司や先輩に質問・相談しやすい雰囲気**で、**分からないことを丁寧に教えてくれます**し、手の空いた際には雑談することも多く、和気あいあいとしています。また、時期によって異なりますが、テレワークや休暇が取りやすくプライベートに充てる時間が作りやすいです。

1年目はほとんどが初めて行う仕事なので、上司や先輩から教えていただく機会も多いです。このため、**一度教わったことは必ずメモを取り、同じ質問を繰り返さないようにしています。**また、なぜこの業務を行うのかについても把握するよう心掛け、業務についての知識を深め、より視野を広げることを意識しています。

素早さと丁寧さの両立を心掛けています。どんなに些細なミスでも、後に大きな問題になる場合があるので、素早く処理しなければならない中でも、一つひとつ丁寧に作業をこなすようにしています。

どんなことを心掛けて仕事をおこなっていますか？

スケジュール感を意識して仕事を行っています。個別の業務に取り組むにあたって、まず前回のプロセスを確認しますが、準備に要した時間等、細かい情報は残っていないことも多いので、**早めに業務内容を把握し、締切から逆算してスケジュールを立て、期日に間に合うように業務をこなしていくこと**を心がけています。

どんな仕事に対しても、自分なりの考えや疑問点を整理した上で取り組むようにしています。また、私の所属している総務課では、とりまとめの仕事をする場面が多く、メールや電話で説明する際は、できるだけ分かりやすく順序立てて説明することを心掛けています。

財務省の業務は国家予算の編成など非常に大きいスケールの仕事だと思っていました。しかし、財務省の仕事が世の中に還元されるまでには、**多くの人の小さな仕事の積み重ねで出来上がっているということ**を学びました。私も目の前の仕事に丁寧に取り組み、世の中に少しでも貢献できるよう精進していきたいです。

令和3年採用職員

令和3年採用職員9名に、就職活動の思い出や

からのメッセージ

入省してからの1年間を振り返ってもらいました。

アンテナを高く張り、周りに気を使えるようになりました。入省したての頃は、自分の仕事に精一杯で周りが見えていませんでしたが、**少しずつ周囲に気を配れるようになり、積極的に周りの業務にも関われるようになりました。**先輩にもアンテナを高くと言われていましたが、周りを気にすることで今どんなことをしているのか、どんな問題が発生しているのか分かるようになり、ただ漠然とこなしていた仕事の意味も理解できるようになったので、とても大切なことだと思います。

入省してから成長したと思う部分はどんな部分ですか？

一つひとつの仕事に対し、落ち着いて対応できるようになりました。入省して間もないころ、当時の係長から「慌てそうになったら深呼吸！」と助言を頂きました。以来、忙しくなって混乱しそうなときは、この助言を思い出し、落ち着いて業務を処理することができるようになりました。

タスク管理を上手く行えるようになったと思います。様々な案件を受け持つため、それぞれの作業の優先度を踏まえ、時間のかかる案件については、**いつまでに何をすべきか、逆算したスケジュールを考えながら動くことが出来るようになった**と思います。

財務省は忙しいイメージがあり、入省前は、1年目に休暇を取得することは難しいかと思っていました。しかし、私が配属された部署は、通年忙しいわけではなく、**繁忙期と閑散期のメリハリがあるので、閑散期は定時退庁するなどプライベートの時間も確保できています。**

私は説明会に参加し、**若手職員であっても自らの業務に責任感を持って働く先輩方に憧れ、財務省を志望しました。**実際に働く中で、この1年先輩方大変お世話になり、こんな先輩職員になりたいという目標を持つことができました。みなさんにも是非、数多くの説明会に参加していただき、財務省の業務内容はもちろんのこと、ともに働く方々の人柄にも触れていただければと思います。

入省前と入省後ではギャップはありますか？

財務省は**予算や税制だけではなく様々な業務を行っており、入省後も自分の可能性を広げることのできる場所**です。一度足を運んでいただき、メリハリのある職場の雰囲気や、財務省職員の優しい人柄など、財務省の魅力を感じていただければと思います。

財務省を志望する方へメッセージ

入省前は、国の予算や税金等に関する仕事柄、堅い雰囲気職場を想像していました。しかしいざ入省してみると、**仕事には集中して真面目に取り組む一方で、手が空いたら雑談して笑いあったり、業務の節目を迎えたらみんなでお茶会をしたり**など、明るく楽しい人ばかりでした。毎日忙しく、仕事に没頭する日々を想像していましたが、それだけではなく、時には真剣に、時には楽しく仕事することができています。

私は説明会に参加したときに雰囲気の良さを感じ、財務省を選びました。**自分が国民の生活を支えているという誇りを持って仕事に取り組めます。**みなさんも是非、各省庁等の説明会に参加していただき、その上で財務省が選択肢となれば非常に嬉しく思います。